

語る、くまもとの宝
そこに、目撃者がいた



歴史遺産に会う まちあるきのススメ

がんばるけん！

くまもとけん！



©2010
熊本県くまモン

語る、くまもとの宝
そこに、目撃者がいた



歴史遺産に出会う まちあるきのススメ

城や公園、石橋など多くの歴史文化遺産に恵まれた熊本県。

その歴史文化遺産を長い間見守ってきた、歴史の証人の声に耳をすますと、

それらは人々の思いや技術によって、今を生きる私たちに受け継がれた大切な宝物だと感じられます。

マップを手に、県内にある歴史文化遺産を歩けば、

熊本地帯からの復興を目指す本県の姿とともに、今に伝わる遺産の新たな魅力が見えてくるはず。

さあ、各地の歴史文化遺産を訪ねてみませんか？

◆ 城下町に息づく遺産を訪ねて 熊本城・城下町ルート

■ 歴史の証人、飯田丸五階櫓一本石垣、編

- ①桜の馬場・城彩苑
 - ②慶宅坂未申櫓
 - ③戊亥櫓(本石垣)
 - ④加藤神社(宇土櫓 大小天守 観音菩薩)
 - ⑤明八橋
 - ⑥江戸時代の井戸
 - ⑦高麗門の跡
- 「ヒックアップ」北岡神社

3

◆ 米処のにぎわいの高瀬散策 玉名高瀬裏川ルート

■ 歴史の証人、米俵、編

- ①高瀬蔵
 - ②さぶた
 - ③七天神(利益めぐり)
 - ④高瀬目鏡橋
 - ⑤秋丸眼鏡橋
 - ⑥俵ころがし
- 「ヒックアップ」玉名市立歴史博物館(ころがし)

5

◆ 相良700年の歴史遺産を巡る 人吉城下町ルート

■ 歴史の証人、球磨川、編

- ①国宝青井阿蘇神社
 - ②永国寺
 - ③鍛冶屋町通り
 - ④国史跡人吉城跡
 - ⑤人吉クラフトパーク石野公園
- 「ヒックアップ」相良三十三観音めぐり

7

◆ 世界へ、そして未来へ 受け継がれる熊本の歴史文化遺産

「世界文化遺産」明治日本の産業革命遺産(製鉄・造船・石炭産業)(万田坑(瓮尾市)・三角西港(宇城市))

「世界文化遺産候補」長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産(天草の崎津集落)

「世界農業遺産」ユネスコ世界ジオパーク「阿蘇地域」(ユネスコ無形文化遺産)山鉾・屋台行事(八代妙見祭の神幸行事)

「日本遺産」相良700年が生んだ保守と進取の文化、日本でもっとも豊かな隠れ里・人吉球磨、

「日本遺産」米作り、二千年にわたる大地の記憶、菊池川流域「今昔」水稲「物語」

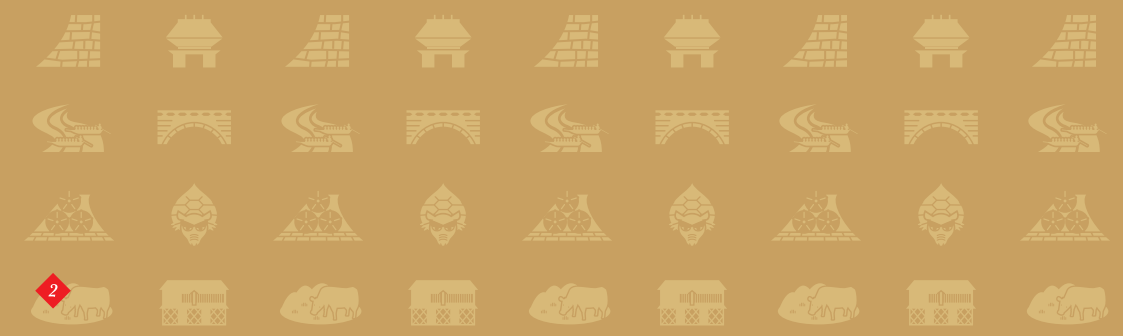
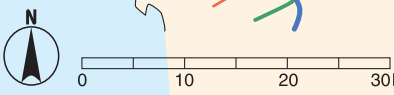
9



熊本県MAP



- 主要経路
- 九州新幹線
 - JR線
 - 高速道路
 - 主な国道



城下町に息づく遺産を訪ねて

熊本城・城下町ルート

■歴史の証人、飯田丸五階櫓一本石垣編

わたし、熊本城を長年見守ってきました。たくさんのお殿様にもお会いしてきましたね。

城主は変わろうともその威風堂々とした天守と石垣は、長い間、熊本の本シンボルとして人々に愛されてきたんです。

大地震、大雨、炎上。

お城は、いろんなことを経験してきましたけど一度だってこたれませんでしたよ。

だって、何度も、何度も、立ち上がるのが、熊本城ですから。今は痛々しいところもありますけれど、

崩れた石垣から石に彫られた観音様が出ていらした時は、お久しぶりの再会に心が躍りました。

わたしですか？

わたしは、飯田丸五階櫓の一本石垣です。

目を閉じると思い出すのは、木々の緑と、空の青に映えるお城の姿。

その堂々たる雄姿がわたしの心から消えることはありません。ほら、あなたも目を閉じてみてください。お花見やスケッチ大会！

楽しかった思い出の中に、いつも熊本城の姿があるでしょう？

お城が復活する日が、本当に待ち遠しいですね。

飯田丸五階櫓を支える一本石垣 (2016年4月撮影)
(写真提供=熊本城総合事務所)

誇り高き城下町 清正公が造った町割を歩く



一新校区自治協議会長
毛利 秀士さん

熊本城の郭の外周として堀や土塁をめぐらせた「総構(そうがまえ)」にあたる新町は、清正公が作った町割が今も当時のまま残る歴史と伝統のエリアです。熊本城から諸国へと通じる四街道の起点「元標(げんぴょう)」を擁する、熊本城の玄関口で、五つの強固な城門に囲まれていた防衛の要町でした。

城門近くに武家屋敷を、町の中央に商人と職人を配した新町に対し、古町は「町人町」として造られ、細工町・呉服町などの町名に当時の面影を見ることができま

す。熊本地震で町屋やお寺などの文化財が傷つき、たくさんのお城の財産が失われました。しかし、復興しようとして立ち上がった人々の力が満ちて、新しい建物や生まれ変わった店など、新たな見どころも生まれています。

熊本城をはじめとする歴史遺産を礎に、新たな魅力を発信する古町・新町エリアをぞろぞろ歩いてみませんか？

歴史と食を楽しもう 桜の馬場 城彩苑

① 熊本の食文化と歴史を体験できる「桜の馬場城彩苑」から、いざ出陣。城彩苑には、歴史文化体験施設「湧々座」もあり、侍や忍者、町娘などの時代衣装を着る「なりきり体験」も楽しめます。

問/096(288)5600
熊本市中央区二の丸1-1-1



熊本城・城下町おすすめルート

① 桜の馬場 城彩苑

② 慶宅坂・末申櫓

③ 戌亥櫓(一本石垣)

④ 加藤神社(宇土櫓・大小天守・観音菩薩)

⑤ 明八橋

⑥ 江戸時代の井戸

⑦ 高麗門の跡

ここにも一本石垣が!?

戌亥櫓

③ 戌亥櫓は西出丸(にしでま)の北西角に位置する三階櫓で、飯田丸五階櫓と同様に、わずかな角石に支えられています。現在、二の丸広場北側から近くへと降りて見ることができるようになりました。戌亥櫓の奥には、修復が進む大小守と宇土櫓の姿を見ることができま



戌亥櫓の一本石垣

守りの要衝 慶宅坂・未申櫓へ

ひつじ きる やぐら

② 未申櫓へと続く慶宅坂は、清正の“守り”へのこだわりが表れた防衛の拠点です。未申櫓の狭間(さま)から鉄砲で撃つと、敵兵に致命傷を負わせることができる絶妙な距離。一斉射撃で敵を一網打尽に。ちなみに慶宅坂は、細川忠利に召し抱えられた医師・高本慶宅にちなんで名付けられたと伝わります。



大天守

小天守

宇土櫓と天守閣を 加藤神社から望む

④ 地震を乗り越え、創建当時の凛々しい姿を見せる宇土櫓と2021年中の復旧・公開を目指し工事が進む天守閣。加藤神社には、崩れた石垣から発見された戦国時代の観音菩薩も安置されています。

問/096(352)7316
(加藤神社)
熊本市中央区本丸2-1



戦国時代に造られた供養碑を割り、石垣に転用したといわれている観音菩薩
※分かりやすいように線の部分をなぞっています



“肥後の石工”の 技が光る明八橋

⑤ 日本橋や皇居の旧二重橋を手掛けた“肥後の石工”橋本勘五郎が架設した石造りのアーチ橋。“明治8年”(1875年)にできたので「明八橋」と名付けられました。通潤橋(山都町)や霊台橋(美里町)を手掛けた石工の技を間近で見ることができま



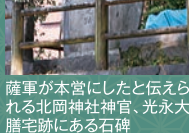
旧町名案内板で旧名をチェック! どんな職人が住んでいたか、町の成り立ちがわかる

さらに足をのびして・・・

北岡神社に、西郷どんの本営跡があった!?

縁結びの神様として知られる北岡神社。1877(明治10)年に起きた「西南の役」で、西郷隆盛が本営を置いた西郷どんゆかりのスポットでもあります。城内からの砲撃が集中するようになり、二本木に陣を移したと伝えられています。

問/096(352)2867
(北岡神社)
熊本市西区春日1丁目8-16



薩軍が本営にしたと伝えられる北岡神社神宮、光永大膳宅跡にある石碑

934(承平4)年に創建されたと伝わる北岡神社

こんなところに 江戸時代の井戸が!?

⑥ 玩具問屋「むろや」の店内には江戸時代の井戸が残されています。直径90センチ、深さ6メートル以上という井戸には、今も地下水がわき出しており、近隣の小学生も見学に訪れては、昔の暮らしを体験しています。見学可。

問/096(354)6083
熊本市中央区新町4-2-40



鉄壁の防御はここにも! 高麗門の跡

⑦ 高麗門は加藤清正が花岡山方面からの敵を防ぐために造った門です。明治時代初めに解体され、跡地には石碑がたがずんでいます。通行証がなければ、何人も新町には入れなかったという守りの要でした。



米処のにぎわいの高瀬散策

玉名高瀬裏川ルート

■歴史の証人、米俵編

清冽な水をたたえて流れる、菊池川。

その流域は、古くからおいしいお米で天下に知られてたんです。

江戸時代には、年貢米として高瀬御蔵に集められ、

船で大坂堂島にあった藩の蔵へと運ばれると、

そのおいしさが、たちまち大評判に。

全国の米相場の基準になるほど、高く評価されたものですよ。

わたしですか？わたしは、菊池米の米俵です。

あの頃、高瀬の町は、それは、それは、にぎやかでした。

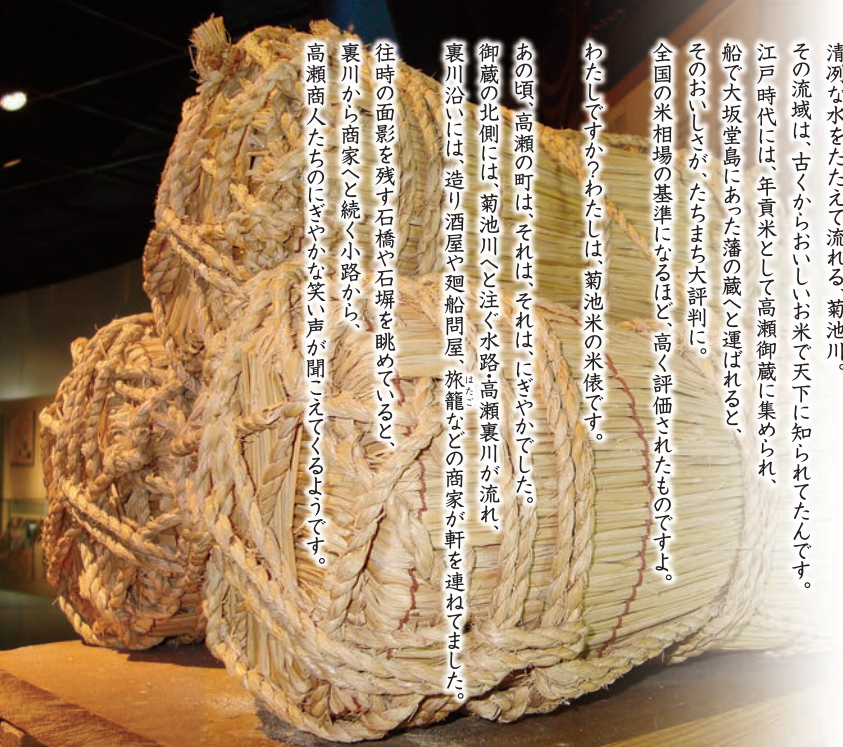
御蔵の北側には、菊池川へと注ぐ水路高瀬裏川が流れ、

裏川沿いには、造り酒屋や廻船問屋、旅籠などの商家が軒を連ねてました。

往時の面影を残す石橋や石堀を眺めていると、

裏川から商家へと続く小路から、

高瀬商人たちのにぎやかな笑い声が聞こえてくるようです。



米俵(写真提供=玉名市立歴史博物館ひろびア)



高瀬町歩き名人
荒木 純治さん

商人町の暮らしが息づく
高瀬裏川いにしえ散歩

2017年に、菊池川流域の米づくりの文化が「日本遺産」に認定されたことから、米の集積地として栄えた玉名市高瀬地区が注目を浴びています。

江戸時代、藩の経済基盤を担う「肥後の五カ町」として保護された高瀬地区には、今も高瀬裏川沿いの石橋に、往時の面影が残ります。

そぞろ歩くと、石垣の反り具合や石の大小などから、施主の好みを知ることができ、石に掘られたノミの跡に目をこらすと、昔人の息遣いが聞こえてくるような気がしませんか？石橋を実際に渡ってみると、荷を運ぶ人が足を踏ん張りやすいように路面をV字に削ったり、荷車が川に転落しないように、橋の片側に荷車の轍(わだち)がすっぽりと入るような溝が掘ってあるなど、当時の石工たちの緻密な仕事ぶりが見えてきますよ。

往時のにぎわい残る 高瀬蔵

① 明治初期に造られた町屋と蔵が改修されて、レストランやコミュニティホールに。昭和初期には肥料屋となったことから、家屋の中には、肥料を運んでいたトロッコのレールが残されており、往時のにぎわいをしのばせます。

問/0968(72)2480
玉名市高瀬155-1



玉名高瀬裏川おすすめルート

① 高瀬蔵

② さぶた

③ 七天神ご利益めぐり

④ 高瀬目鏡橋

⑤ 秋丸眼鏡橋

⑥ 俵ころがし



天満町天神



本町天神

福を呼ぶ! 七天神ご利益めぐり

③ 平安時代、玉名に進出した大宰府官僚の藤原則隆が建立した高瀬天神をはじめとした「七天神」。高瀬天神から約1500メートルの間に立つ七つの天神様は、学問の神様として信仰を集めています。五叉路を通じてすべての天神様をめぐる「合格(五角)」するとうわさも!?



商人たちの息づかいを感じる 高瀬目鏡橋

④ 「高瀬の表玄関」といわれた高瀬目鏡橋。1848(嘉永元)年に町奉行・高瀬寿平らによって架けられたという石造りのアーチ橋です。壁面には水の勢いをやわらげる工夫の水制工がついています。

さらに足をのびして・・・

かな くり し ぞう

金栗四三のゆかりの品を展示

日本人で初めて、「第5回オリンピック・ストックホルム大会」に出場したマラソン選手・金栗四三さんは、和永町生まれ。2019年のNHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック噺〜」の主人公に決まり、注目を集めています。玉名市立歴史博物館こころピアでは、常設展示コーナーを設け、ユニフォームやメダル等貴重な資料を紹介しています。

間/0968(74)3989

(玉名市立歴史博物館こころピア)

玉名市岩崎117(高瀬蔵から車で約3分)



マラソンシューズの原点「金栗足袋」

江戸時代の 防災の知恵 さぶた

② 高瀬裏川に面する商家に残る「さぶた」。さぶたとは、川の増水時に屋敷への浸水を防ぐために造った木板の堰(せき)のこと。川へと降りる階段の途中には、かつて木板をはめ込んだ石柱が残っており、ピンク色をした馬門石(まかどいし)が使われています。



上流側と下流側は 別の顔!? 秋丸眼鏡橋

⑤ 1832(天保3)年に造られた当初は、裏川の upstream に架けられていた秋丸眼鏡橋。石造りアーチ橋ですが、下流側には菊池川の増水が逆流しないよう水門が造られている希少な橋です。



藩米を運んだ舟運の拠点 俵ころがし

⑥ 江戸時代の高瀬には、菊池川流域で収穫された米の集積地である藩営の米蔵「高瀬御蔵」がありました。蔵から船まで米俵を運ぶために、築いた石畳の坂道が「俵ころがし」です。1841(天保12)年頃には、年間24万俵に及ぶ藩米を移出する藩内随一の拠点でした。

相良700年の歴史遺産を巡る

人吉城下町ルート

■歴史の証人 球磨川編

「人よし、酒よし、温泉よし」

人吉球磨を訪れた客人は、皆そう言いながら過ごします。わたしこと球磨川はそんな様子をずっと眺めてきました。

まずは、川沿いに湧き出る温泉で「ほうっ」と一息。卓上には清流が育んだ尺アユをはじめとする山の幸のごちそう。

清らかな地下水で仕込んだもろみで作る球磨焼酎を酌み交わします。

じゃんけんのルーツともいわれる「球磨拳」で、いざ勝負！

「そら（お飲みなさい）」と差し出された盃を

負けた方は「ぎゅう」と飲み干すのが習わし。

底に穴が開いており、空にするまで置くことができないという

粋な盃「そらぎゅう」も人吉球磨ならではの名物です。

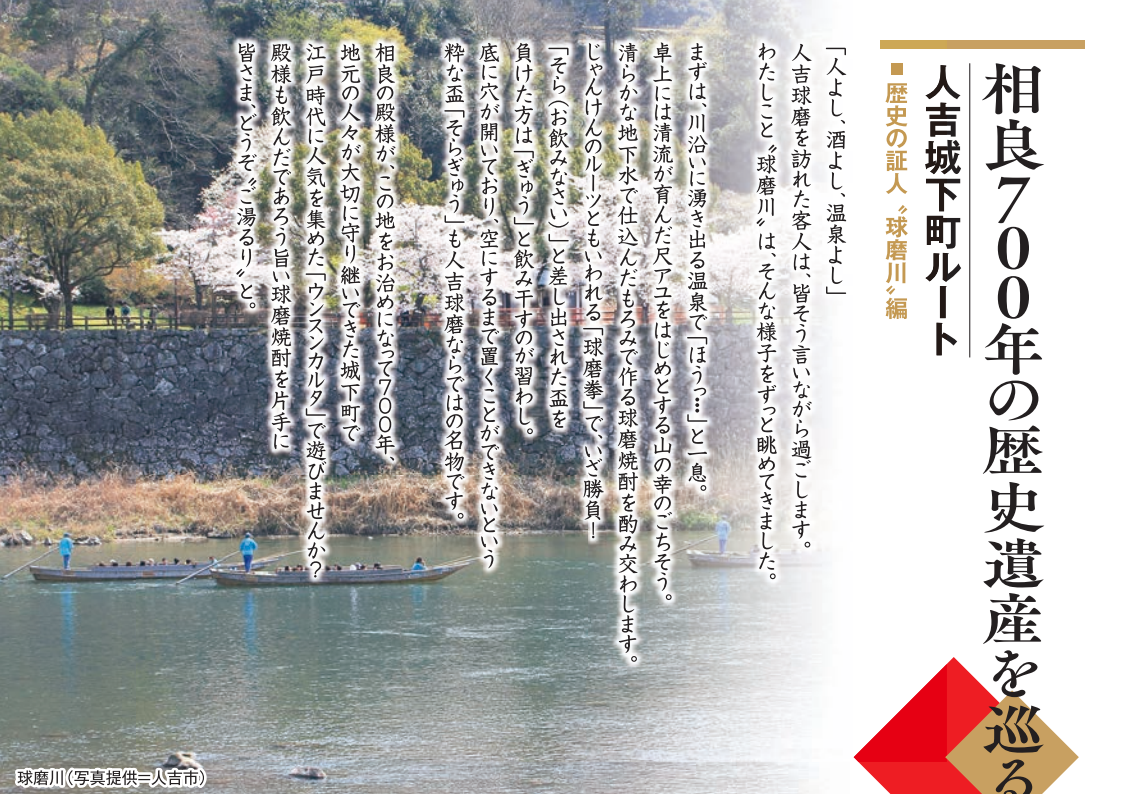
相良の殿様が、この地をお治めになって700年、

地元の人々が大切に守り継いできた城下町で

江戸時代に人気を集めた「ウンズンカルタ」で遊びませんか？

殿様も飲んだであろう旨い球磨焼酎を片手に

皆さまどうぞご湯るりごと。



球磨川(写真提供=人吉市)



人吉市観光案内所
人吉温泉観光協会 観光案内人
藪田 浩子さん

人吉球磨のストーリー | 探訪 城下町で過ごす雅な時間

人吉球磨地方は、平成27年に「相良700年が生んだ保守と進取の文化」日本でもっとも豊かな隠れ里—人吉球磨—として日本遺産に認定されました。明治維新までの長きにわたる相良氏の統治時代に遺した文化遺産とそのストーリーは、今も人吉球磨の各地域に息づいています。

城下町には、焼酎蔵やみそしょうゆ蔵、武家蔵などが点在しているので、蔵めぐりで職人たちの技と思いに触れるのもいいですね。また2月から3月中旬には人吉藩ゆかりのひな人形等を展示する「人吉球磨は、ひなまつり」、10月3から11日には国宝青井阿蘇神社「おくんち祭」と、相良700年の歴史に触れる催しも開催されます。レンタサイクルも用意しておりますので、人吉市観光案内所までお気軽にお声掛けください。

人吉球磨の総鎮守 国宝青井阿蘇神社

①806(大同元)年創建。相良氏入国の後には氏神として庇護を受けた人吉球磨地方の総鎮守です。社殿には中世人吉球磨独自の意匠と安土桃山時代の華麗な装飾が施され、本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門と造営時の棟札1枚、改築時の情報記された銘札5枚が、国宝に指定されました。

問/0966(22)2274
人吉市上青井町118



人吉城下町おすすめルート

- ① 国宝青井阿蘇神社
- ② 永国寺
- ③ 鍛冶屋町通り
- ④ 国史跡 人吉城跡
- ⑤ 人吉クラフトパーク石野公園

職人町で雅な蔵めぐり 鍛冶屋町通り

③ 職人町として栄えた小路を歩けば、今も鍛冶屋から職人が鋳(つち)をふるう音が聞こえてきます。「みそ・しょうゆ蔵」「茶の蔵」など、昔ながらの蔵めぐりも楽しめます。江戸時代に流行ったカルタ遊び「ウンスンカルタ」体験もおすすめです。

問/0966(22)2411(人吉市観光案内所)
人吉市中青井町326-1 JR人吉駅構内



8月第1土曜には「ゆうれい祭り」を開催。真筆の掛け軸をご開帳！

“ゆうれい寺”で お財布が潤う!? 永国寺

② 實底超眞和尚(じつていちょうしんおしょう)が描いたという幽霊の掛け軸が伝えられる“ゆうれい寺”。境内には幽霊が出たという池も残されています。江戸時代、「お足が出ない=赤字にならない」と商人たちが掛け軸を拝んだとか。

問/0966(22)2458
人吉市土手町5



四季の美を愛でる 国史跡 人吉城跡

④ 相良氏の居城であり、別名「緋月城」と呼ばれていました。球磨川を天然の堀として作られたこの城は、今や人吉のランドマーク。春には桜、秋には紅葉の名所として多くの人々が訪れます。

問/0966(22)2411(人吉市観光案内所)
人吉市中青井町326-1 JR人吉駅構内



球磨川と胸川に抱かれるように
たたずむ人吉城跡



伝統の技を見て、触れて、体験! 人吉クラフトパーク石野公園

⑤ “クラフトのまち”人吉球磨の技が集結。鍛冶・民芸・木工・陶芸の実演見学、体験もできます。

問/0966(22)6700
人吉市赤池原町1425-1



人吉の伝統工芸
き馬と花手箱



コマのような
独特の形状の盃
そろざきゅう

さらに相良の歴史を感じたい方は・・・

相良三十三観音めぐりもオススメです

江戸時代中期、庶民の心のよりどころとなった“観音信仰”。各地域ごとに祭られた観音様を、御詠歌を唱えながら訪ね歩く「相良三十三観音めぐり」は、今に受け継がれています。春と秋のお彼岸(3・9月の中～下旬)に一斉開帳され、地元住民の温かなもてなしも楽しみのひとつです。

問/0966(22)2411(人吉市観光案内所)
人吉市中青井町326-1 JR人吉駅構内



「瀬原観音」(人吉市九日町15)
は、鍛冶屋町通りから歩いて約7分

世界文化遺産 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

2015(平成27)年、世界文化遺産に「明治日本の産業革命遺産」が登録されました。「明治日本の産業革命遺産」は、九州・山口などの8つのエリアに点在する23の資産で構成し、熊本県には、万田坑・専用鉄道敷跡(荒尾市)、三角西港(宇城市)があります。

◆ 万田坑 (荒尾市)

万田坑は、最先端の技術導入がなされ、明治・大正期における最大級の炭鉱施設となりました。1951(昭和26)年に採炭を中止し、その後排水等の役割を担っていましたが1997(平成9)年に閉山しました。万田坑には、巻揚機をはじめ、明治期の炭鉱施設として採炭から出炭までの一連の施設が残されており、我が国の近代化を知る上で欠かすことのできない貴重な遺産です。



万田坑

◆ 三角西港 (宇城市)

三角西港は、明治政府から依頼されたオランダ人水理工師ムルドルによって設計され、天草の石工たちの手により1887(明治20)年に築港されました。国の特別輸出港に指定され、三池炭鉱から運ばれてきた石炭の積み出しが行われるなど、九州の一大集散地となりました。地形や海流を活かした設計、石材を丹念に仕上げた施工技術などにより、130年たった今でも築港当時の姿をとどめています。



三角西港

世界へ、そして未来へ 受け継がれる熊本の歴史文化遺産

熊本の豊かな大地やそこで営まれる人々の暮らし、さらに先人から受け継いだ伝統文化に、今、熱い視線が注がれています。一つひとつに宿る歴史のストーリーを見つけに行きませんか？

世界文化遺産候補 長崎と天草地方の潜伏キリタン関連遺産

「天草の崎津集落」は「長崎と天草地方の潜伏キリタン関連遺産」の12の構成資産の一つとして、2018(平成30)年の世界文化遺産登録を目指しています。



崎津集落

◆ 天草の崎津集落

キリスト教禁教期の崎津は、多くの住民が潜伏キリタンとして信仰を続けました。崎津集落では、アワビなどの貝殻の模様をマリア像に見立て崇敬するなど、漁村特有の信仰形態が受け継がれました。

集落のシンボルである崎津教会は、禁教期に絵踏みが行われた庄屋敷跡地を選んで建てられました。禁教期に信者が密かに祈りを唱えた崎津諏訪神社など、信仰の歴史を物語る資産が残ります。



あか牛の放牧

世界農業遺産 2013(平成25)年認定

ユネスコ世界ジオパーク 2014(平成26)年認定

◆◆ 阿蘇地域

世界有数の規模を誇る阿蘇のカルデラ。人々の手により維持されている広大な草原と、長年の農地改良によって育まれた豊かな大地が広がります。阿蘇地域は、長年にわたる農業の営みが世界的に高く評価され、「世界農業遺産」に、また、今なお続く火山活動がもたらした特徴的な地形・地質などが評価され「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

そして、古来より火山地域という過酷な自然環境に向き合った人々の力で維持されてきた阿蘇の草原やそこに営まれた阿蘇独自の文化を中心とした文化的景観について、世界文化遺産登録を目指して、専門家・行政・地域住民が連携して取り組んでいます。

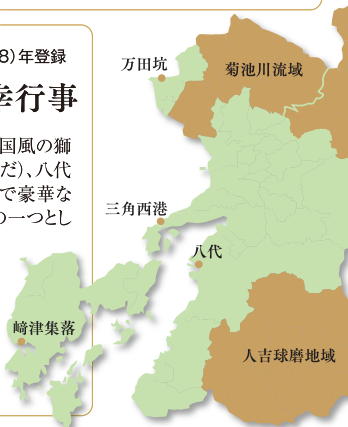


菊慈童、西王母、蜜柑など9基の笠鉦

ユネスコ無形文化遺産 2016(平成28)年登録

◆◆ 八代妙見祭の神幸行事

毎年11月に行われる八代妙見祭は、中国風の獅子や妙見渡来伝説に由来する亀蛇(きだ)、八代オリジナルの笠鉦(かさぼこ)など多彩で豪華な出し物が特徴の祭礼で、九州三大祭の一つとしても知られています。2016(平成28)年、八代妙見祭を含む全国33の祭礼が「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。



日本遺産 2015(平成27)年認定

◆◆ 相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本で最も豊かな隠れ里—人吉球磨～

鎌倉時代から約700年もの長きにわたり、相良氏により統治され、独自の文化を育んできた人吉球磨地域。400年以上前の建築が今に残る国宝青井阿蘇神社や、ウンスンかるたなど、今も当時の文化が息づいています。

日本遺産 2017(平成29)年認定

◆◆ 米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～

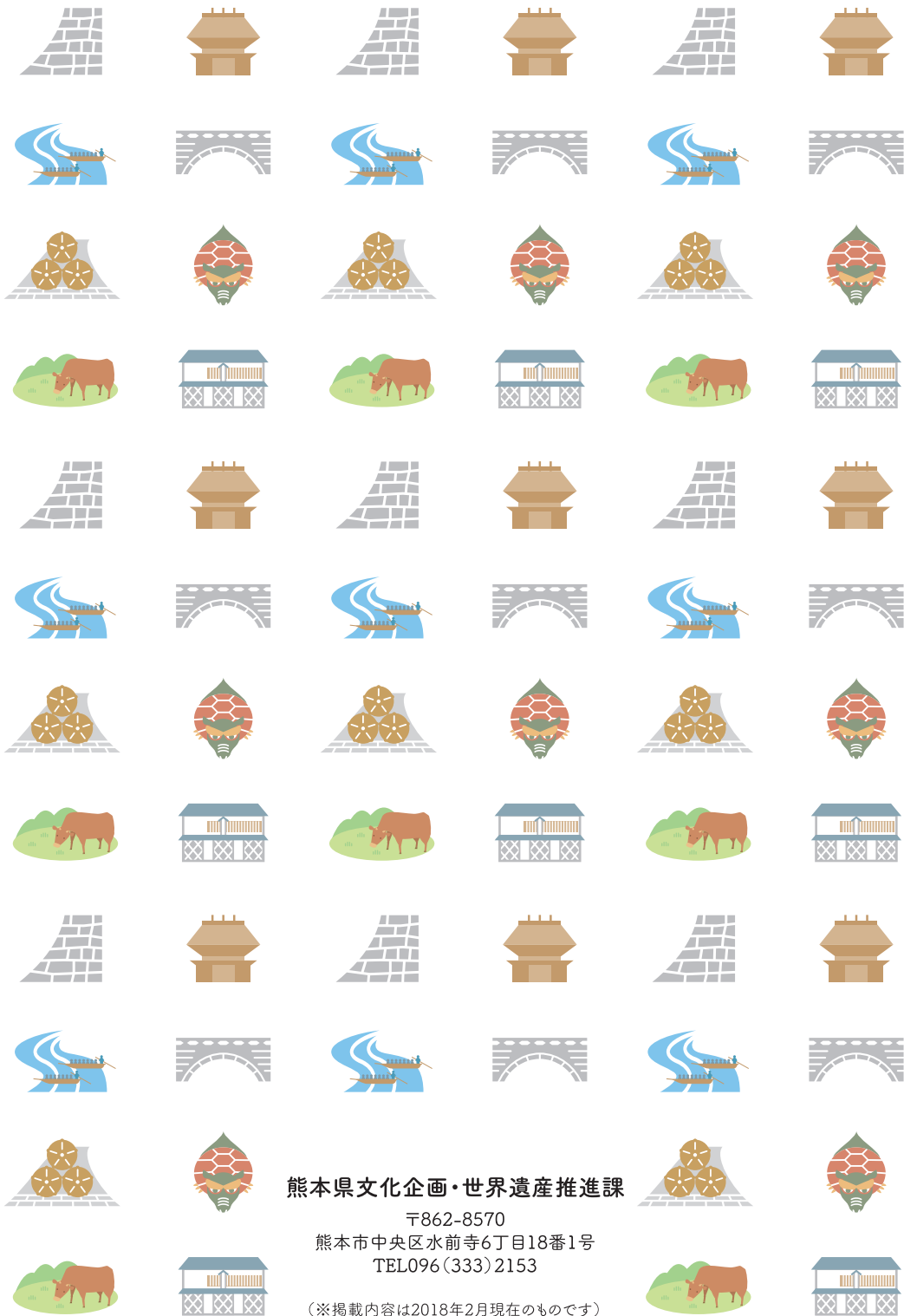
菊池市、山鹿市、玉名市、和木町を流れる菊池川。この菊池川が潤す大地で、水田、棚田、干拓地など、地形に応じた米作りがなされ、豊かな実りははぐくみました。



旧玉名干拓施設のひとつである末広開樋門(すえひろびらきひもん)(玉名市)



国宝青井阿蘇神社
楼門と白太鼓踊り



熊本県文化企画・世界遺産推進課

〒862-8570

熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

TEL096(333)2153

(※掲載内容は2018年2月現在のものです)